

オオムラサキを守れ～1年目～

ザベリオ小学校 5年1組

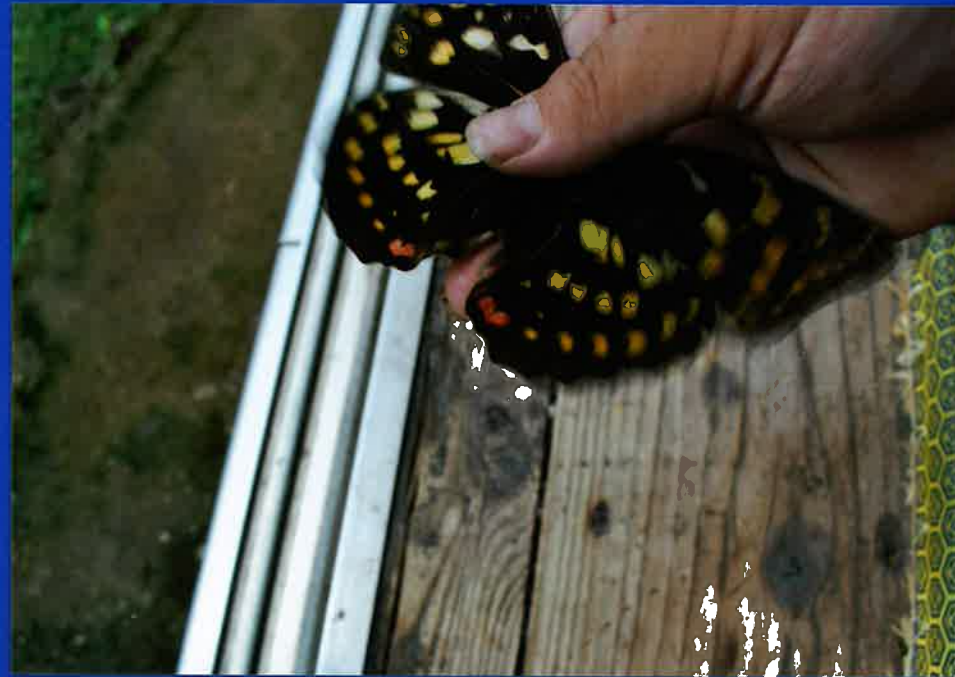
阿部 正紀

アベ マサキ

年齢 11歳

学年 5年

性別 男



目次

はじめに	
準備物	1
方法	2
	3
採集の様子	4
	5
昼の様子	6
	7
夜の様子	8
	9
まさかの展開	
Part 1	10
	11
まさかの展開	
Part 2	12
	13
里山のきき	14
	15
ぼくにできる事	16
なぜオオムラサキ?	17
おわりに	

準備物

- 果物
 - ・ バナナ… 可食部含む
 - ・ キロシ… 皮、種
 - ・ スイカ… 皮
 - ・ パイナップル… 皮、可食部含む
- ◎ ヨーグルト
- ◎ 納豆
- ◎ イースト
- ◎ しょうちゅう
- ◎ 砂糖



方法

8/2日

①果物の重さをそろえ、イースト・しょう
ちゅう・砂糖を加えジッ アロッ クハ入れる。



方法

② イースト菌以外の菌でバナナトラップをつくり、菌の違いにより集まる虫が変化するか比較してみる。

・ バナナ + 納豆 → 納豆菌

・ バナナ + ヨーグルト → 乳酸菌

・ それぞれのトラップに番号をつけ吊るす。

① バナナ + イースト・(ほうちゅう)・砂糖

② Xロント

③ スイカ +

④ ハイチツフォル +

⑤ バナナ + ヨーグルト

⑥ バナナ + 納豆

⑦ ハイチツフォルのみ
(あまったので吊るしませんでした)

採集の様子

1回目 8/4 ~ 8/5

2回目 8/14 ~ 8/15

● 祖父母の家の庭(裏の畑?)



● 果物トラップをネットに入れて吊るす。

1～7番まで



● あたりは果物の完熟した
においが広がっている。

昼の様子



8/4 天候 晴れ

12:00 頃の様子

10:00 トラップをしかける

No.				
Date				
日付	時間	気温	湿度	トラップの様子
8/4	12:00	28°C	66%	① マダラヒカゲ T キタテハ正 ⑤ キタテハ T, マダラヒカゲ T ⑥ タテハ正 T, カブト T ⑦ キタテハ — カナブン F
	13:00	28°C	66%	① タテハ T オオムラサキ T ② タテハ — ③ タテハ — カナブン F ⑤ タテハ T
	14:00	28°C	58%	⑤ タテハ T ⑦ コジノメ F
	15:00	29°C	55%	① ミズナマキ —, ルリタテハ T ② コジノメ ⑤ キタテハ T ⑦ キタテハ正
• 開始後 2時間くらいのお昼がチョウや甲虫類のピークだった。 • 14:00 頃から気温が上がり暑くなったためか寄ってくる虫が少なくなった。 • この時間においても ① のバナナトラップが一番虫が寄っている。 • 他の果物はとくに寄っている数に変化はなかった。				

9:00頃、トラップから少し離れた所で マカホジゴマダラをみる。

No.				
Date				
日付	時間	気温	湿度	トラップの様子
8/4	10:00	28°C	65%	① キタテハ T
	12:00	31°C	72%	⑦ カブト —
	14:00	32°C	70%	① タテハ — ② タテハ T ⑦ コジノメ T
• 8/4 日、たふさのチョウや甲虫類が集まっていたのが、内りのように何も集まっていなかった。 • オオムラサキの姿もみあたらない。				

夜の様子



8/4 21:00 甲虫類が集まりはじめた
 気温 27°C
 湿度 76%

日付	時間	気温	湿度	
8/4	21:00	27°C	76%	①カナブン F カブトー ⑥カナブン ⑦カブト X ス T カナブン T
	22:00	25°C	75%	①キンタハ ②コメツキムシ ③カナブン ⑥カブト T ⑦カナブン F
8/5	3:00	25°C	75%	①カブトー
8/14	21:00	28°C	80%	• 午後から小雨が降ったため、夜のトラップには虫が集まらず残念。 • 8月上旬にはたくさん集まっていた甲虫類も、8/14日にはほとんどいみられず。 • くに、カナブンは一匹も寄ってこなかった。

まさかの展開 Part 1①

8月4日 13時

トラップを見に行ったら見かけない蝶を発見。大きくて白っぽい、トラップに集まっている他の蝶をけ散らすくらい迫力がある

まさか…

オオムラサキだ！

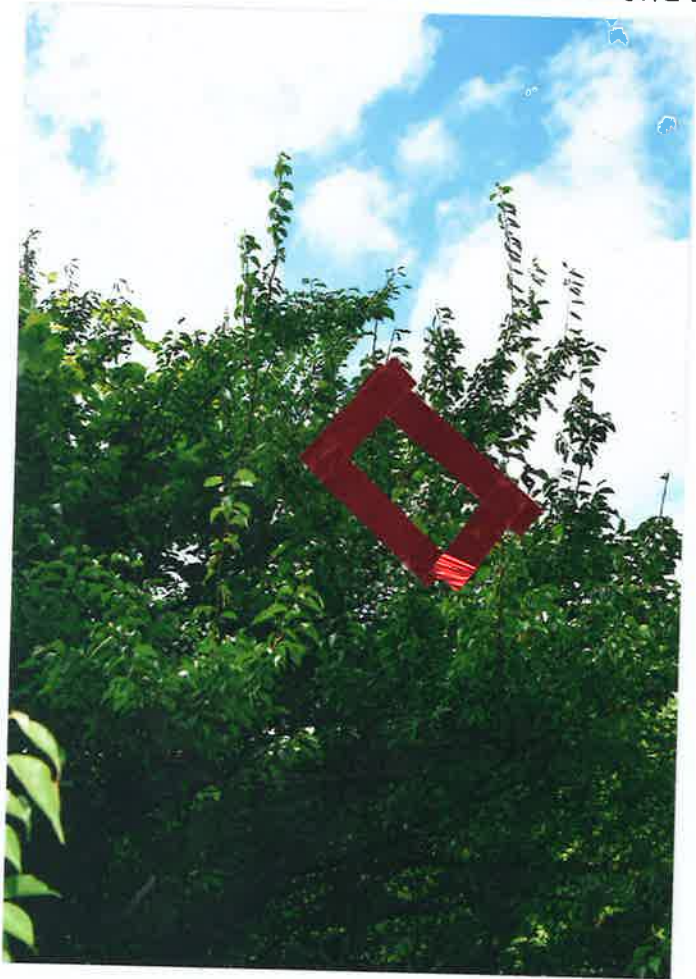
背中のみらさき色、はねを閉じたときに白い蝶のように見える特徴

郡山市にあるオオムラサキ観察舎に見学に行ったことがある
自然界では珍しいと思っていた

しかも、一匹ではない

上空を鳥のように舞い、蝶なのにバサバサと羽音がする

トラップに1匹、その近くにまた1匹、そしてもう1匹が空高くとんでいた



まさかの展開 Part 1 ②

捕まえた蝶を観察してみたらオオムラサキに間違いなかった

オオムラサキは1957年、日本昆虫学会により国蝶とされた

当時は日本中で見かけられたらしい

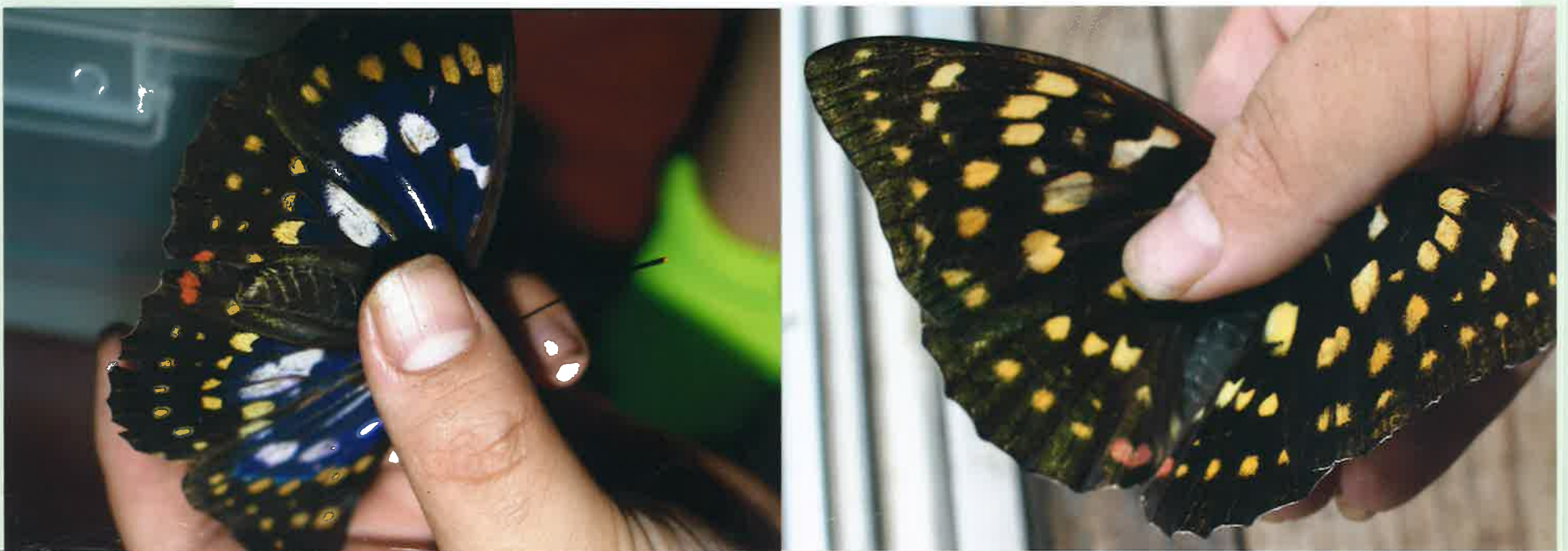
しかし、現在は都市化が進み幼虫のえさとなるエノキやエゾエノキのある雑木林が少なくなっているために生息地が局地的になってきているようだ。

自然にいる生きたオオムラサキを見るのは初めてで、来年もこの場所で観察したいと思った。

今年の夏休みは、オオムラサキとの出会いだけでも大満足で豊かな自然とオオムラサキの事を自由研究にまとめて提出する予定だった

しかし…

オオムラサキとの出会いから1週間後、新たな出会いが訪れた



まさかの展開 Part 2 ①

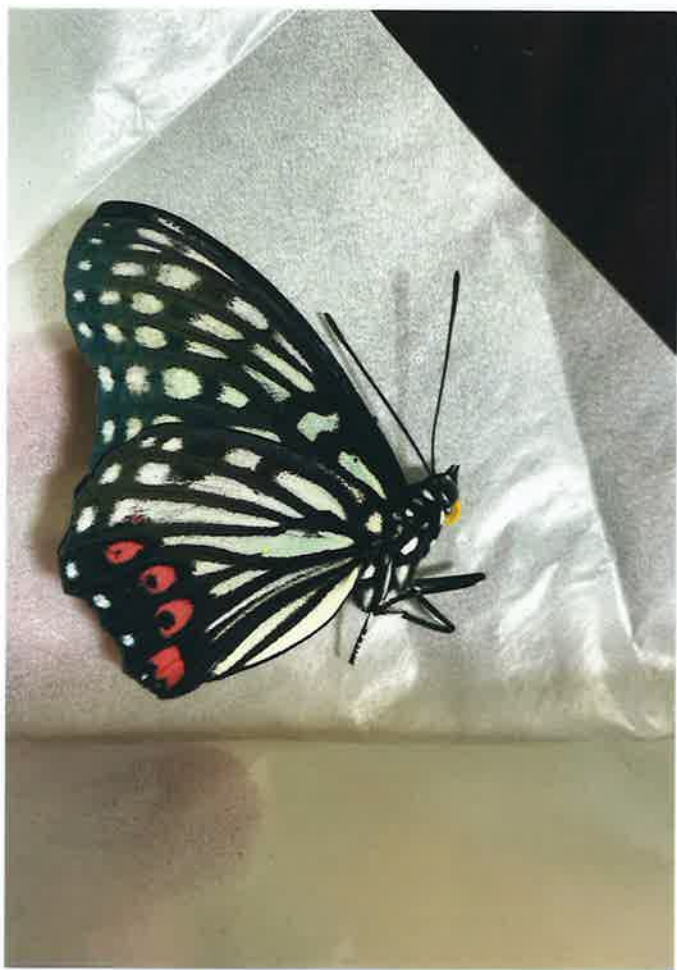
8月14日 9時

トラップへ向かう途中、また見かけない蝶を発見
なんだ？コイツ？が正直な感想だった。
しかし、ぼくはこの蝶の名前を知っている
図鑑が大好きでいつも眺めているからだ

アカボシゴマダラ

奄美にしかいないはず？北上？温暖化？
福島にはいないはずなのに。しかも2匹同時に…
謎が解けたのは、新しく買った昆虫図鑑で調べた時だった

今までの昆虫図鑑は2歳から使っていたので、ボロボロになってしまっていた。
載っている昆虫の情報も少し古かったようだ。



外来種だ
ここ数年急激に分布を拡大し
特定外来生物に指定されている

まさかの展開 Part 2 ②

特定外来生物とは

外来生物法という法律で決められていて、特定外来生物による生態系、人の生命、身体、農林水産物への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命 身体保護、農林水産業の健全な発達に寄与することを通じて国民生活の安定向上に資することを目的としている。

そのために、問題を引き起こす海外起源の外来生物を特定外来生物として指定し飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取り扱いを規制し、特定外来生物の防除等をおこなうこととしている。

※出典 環境省 『外来生物法の目的』をもとに作成

アカボシゴマとは

チョウ目・タテハチョウ科

日本にはもともと奄美大島周辺に固有亜種が分布する。

現在目撃されているアカボシゴマダラは中国大陸産の名義タイプ亜種と推測されており、愛好家によって過去に放蝶されたため分布拡大した可能性もあり。類似環境に生息するオオムラサキや、ゴマダラチョウと競合するのではないかと心配されている

問題点

- ① 在来種であるゴマダラチョウやオオムラサキと食草が一緒のため競合する可能性がある。
- ② ゴマダラチョウとの雑種が増える可能性がある

里山の危機

アカボシゴマダラとオオムラサキは幼虫の食草が一緒なことから今後どのような影響があるのか心配されている。

もしかしたらオオムラサキがいなくなってしまうかもしれない。

せっかく出会えたのに…守りたい！

こんなにも山奥にまで外来種の蝶が増えていることに驚いた。

アカボシゴマダラはとても美しい蝶だ

オオムラサキにだって負けない力強さだってある

しかし…いてはいけない蝶なのだ

悪いのは、蝶を外国から持ち込んでわざと放したりする人間だ

アカボシゴマダラだってうまれた場所で生きてるだけなのに

とても、とても、とても、悲しい

祖父母の家は築100年をこえる古民家だ。縁側に腰掛け、樹齢120年の桜の木を見上げてみた。

大きなあ…

きっとたくさんの歴史をしっているんだろう

昔は今以上にたくさんの生き物がこの庭にいたのかなあ

開けっ放しの玄関からヤブヤンマが入ってきて窓から通り抜けた

縁側の真上にはツバメが巣をつくり雛がピイピイなっている　かわいいなあ

祖母が井戸水で冷やしたスイカを切ってくれた　つめたくて美味しい

近所のおじさんが農作業の合間につかまえたミヤマクワガタをもってきてくれた

ぼくの虫好きはご近所さん公認なのだ

妹が『まっくろくろすけでおいで』と叫んでいる

気持ちは分かる…

足元にピョンと飛びのってきたのはツチガエルだ

いつ来ても変わらない大好きな景色…

しかし気付かないうちに自然の生態系バランスは変わってしまっているのではないだろうか？

田舎だから外来種にもなかなか侵略されないだろうと安心するのは怖いと思った。

ぼくはもっと日本や福島県の生き物の生態系のバランスや、減少している昆虫類がどのくらいいるのか、そして今どのような外来生物により問題が大きくなってきているのかを知りたくなった。

知ることによってぼくにも出来ることがあるかもしれないと考えた。

僕にできること

食草が一緒な在来種の蝶と外来種の蝶を見つけたぼく
どうしたら在来種のおオムラサキを保護できるだろうと考え、まずは成虫を見つけたそばにエノキがあると考えた。
エノキを見つけたら幼虫を保護しようと思ったからだ。
しかしどんなに近くの雑木林を探してもエノキを見つけることが出来なかったのだ。
雑木林も手入れされているわけではなく、うっそうとしている。周辺で最近マムシを捕まえたと言っていたので危険と判断し一時中断した。
しかし、どこかに食草があるはずだ

ぼくは、おオムラサキを守るべき計画を立てることにした
今年は夏休みも短く、外出も場所を考慮しなければならないのでこれ以上の計画遂行はゆっくりすすめる事となった。
提出する分の研究は、計画を立てることまでで終了してしまうけれども来年に向けて動き出そうと思う！

- ① 祖父母宅のそばでエノキを探してみる。もし卵や幼虫を見つけたら飼育してみたい
- ② おオムラサキや外来種の生態について学習する。
- ③ 飼育している施設に詳しい話を聞いてみる
- ④ 敷地内にエノキの幼木を植えて食草を増やしたい
祖母が経営する野菜直売所がおオムラサキを見つけたそばにある。敷地内に食草を自由に植えていいそうだ！

いつかたくさんのおオムラサキを大空に飛ばしてみたい

なぜオオムラサキ？

オオムラサキは指標昆虫とされ(環境庁)良好な自然環境の目安となる。

オオムラサキが飛び交う豊かな環境が守られれば、その地にすむ他の昆虫や生き物の環境も守られていくのではないかと考えた。

守りたい昆虫はたくさんいる。

ヤブヤンマ、ミヤマクワガタ、ムツボシタマムシ、ミヤマカラスアゲハ、シマゲンゴロウ、カブトムシ、ノコギリクワガタ、ホタル…

全部 今まで祖父母宅で見つけた大事な虫たちだ！

すべての昆虫たちに毎年出会える保証はないが、オオムラサキが元気なら他の昆虫たちも元気だと信じたい
だから僕はオオムラサキを守るんだ！

おわりに

一年中虫取り網片手に昆虫採集していると、様々な人との出会いがある。
幼児には尊敬の眼差しでみられ、ちょこちょこついてきたりする。
捕まえた昆虫を見せると歓声をあげて喜ぶ姿がかわいい
公園で年齢が少し上の知らないお兄ちゃんに昆虫を貰ったこともある
おじいちゃんやおばあちゃんにもよく声をかけられ、昔 昆虫採取をした時の
思い出などを聞くとときもある。
今時珍しいタイプの子
よく言われる。
確かに、同年代の友達で同じくらい虫取りしてる子いないかも。
友達とオンラインゲームや流行のYoutuberの話をするのももちろん楽
しい。
学校の勉強だって大切だから頑張っているつもりだし、部活の剣道も楽しすぎ
る！

小学生一人での昆虫採集は孤独なイメージがあるかも知れないが、たくさんの
人と出会いがありコミュニケーション力も磨かれていく気がする

ぼく一人で昆虫採集はできない時があるし、多くの大人たちが協力してくれた
おかげで大好きなことが続けられている

協力してくれている家族、励ましてくれる学校の先生、見守ってくれている地
域の方、ガチ勢のぼくとも仲良くしてくれる友達、採集した昆虫たち
みんなに感謝し、昆虫採集を続けていきたい

今日から オオムラサキを守れ～2年目～に向けて 計画を実行していく
来年の研究に続く



知識は人を育てる

福島民友CM
箭内夢菜さん出演みんゆうネット
特設ページ

2020年(令和2年)

8月19日 水曜日

旧暦7月1日 先勝 六白

福島民友

発行所 福島民友新聞社 〒960-8648 福島市柳町4-29 代表電話 024-523-1191 www.minyu-net.com

郡山市は18日、福島大に通う20代男子学生と、30代と20代の会社員男性の計3人の新型コロナウイルス感染症を確認したと発表した。

【23面に関連記事】

感染確認数
(18日現在)

20代・30代 会社員2人も

いずれも軽症で医療機関に入院する予定。県内の感染確認は2日連続で、計109人。今月だけで20人となった。【23面に関連記事】

家族3人と親戚1人が濃厚接触者。また、市は大半が市内在住とみられる合唱練習参加者の約50人も濃厚接触者に当たる可能性がある。

市によると、男子学生は17日に発熱などがあり、市内の医療機関を受診。18日にPCR検査で陽性と判明した。16日に市青少年会館で地域の合唱クラブの練習に参加したほか、市内の飲食店で家族3人(同居2人、東京在住1人)と食事をした。11・16日は、茨城県の親戚1人が男子学生の家に滞在。親族は17日から発熱の症状があるという。

現時点で、濃厚接触者は20代男性が市内の知人1人で、30代男性は調査中。市は2人について、福岡から大阪で感染した可能性がある。

20代 福島大生、濃厚接触50人か

郡山、男性3人が感染

コロナ直撃、企業

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外国人技能実習生や留学生が予定通り来県できないケースが相次いでいる。在留外国人数が過去最多を更新し、技能実習生が永住者を上回るなど県内で外国人材の受け入れが進む中、出入国に制限の掛かる状態が長期化することで、新型コロナウイルスで打撃を受けている企業活動などへの影響も懸念される。

県内各地にスーパーを展開するリオン・ドールコーポレーション(会津若松市)は2016(平成28)年以降、延べ約1600人のベトナム人技能実習生を受け入れてきた。今年は6月と11月に計61人の受け入れを予定していたが、飛行機の運休などで見合わせを余儀なくされている。「勤勉で仕

事への意識が高く、周りの日本人従業員にも良い影響を与えてくれる。実習のめどが立たないことで、意欲

県内在留外国人最多 昨年1万5357人

本県に在留する外国人は2019年12月末時点で1万5357人に上り、過去最多を更新した。在留資格別では、19年6月末時点で技能実習が4464人と30%を占め、永住者の4385人(29%)を上回った。留学生は887人(6%)だった。県内の在留外国人

入れ再開を願う。

かった。

上位3カ国で約65%を上

小鳥の森(福島)初確認

赤い斑紋外来チヨウ



福島市小鳥の森で見つかった外来種のアカボシゴマダラ。在来種のコマダラチヨウに似ているが、赤い斑紋が特徴。アカボシゴマダラは東アジア原産。幼虫の食餌はアザミ、在来種のコマダラチヨウと競合することから生態系への影響が懸念されている。環境省の特定外来生物に指定されている。コマダラチヨウにはない鮮やかな赤い斑紋が特徴。

タテハチヨウの仲間であるアカボシゴマダラが、18日までに福島市小鳥の森で初めて確認された。アカボシゴマダラは人為的に国内に持ち込まれたとみられ、1995(平成7)年に埼玉県で確認されて以来、関東地方

県内では2013年に猪苗代町、14年

